

# 私から見た和歌山

王 雅馨  
教育学部 交換留学生 中国

和歌山に来て、もう二カ月が経ちました。初めて日本に来たわけではないので、私には和歌山に関する認識は他にある日本の都市とはあまり違いはなく、秩序立っており、静かで忙しいです。しかし、日々の留学生活を通じて、和歌山は長い歴史を持ち、一定の文化も蓄積しているということを知りました。そして、現地の風俗や習慣なども私が訪ねた広島とは多くの面で異なっています。

まずは方言です。同じように日本に属しても、人々の訛りは大いに異なっています。和歌山は関西地方にあり、和歌山の人たちが共通語を話していても、関西弁が見られ、語調も明るく、非常に面白いと思います。現地の方言は、日本語の勉強がまだ一年半の私には完全に聞き取れません。広島はもっと関東風の感じもするし、訛りも中国地方の方言です。私には広島の人々は和歌山人より一層関東人のように見えます。そして、恐らく歴史に影響されるかもしれないですが、広島人は一層穏やかで冷静だと思います。言語は異なった地域の人たちの性格を反映できると言われています。確かにその考えのとおりです。



次に飲食です。和歌山ではどこでも関西の特徴を持っているレストランが見られます。たとえば餃子の王将のように関西風のファーストフード店としても、関西の和食としても、関西飲食の独特な情緒を感じさせられます。そして、関西人の性格にある情熱的なもてなしも店員と店の明るい雰囲気から少し感じられます。暇な時、私はいつも友達と一緒に店に行き、好きな料理を注文し、食べながら話をしています。自分の体も

心も楽になれると思います。

広島では、私も広島焼きを作った経験があります。熱心な店員に助けられて本場の広島焼きを作り出しました。美味しかったです、和歌山で食べたものに違いがあります。それは焼きそばを加えるかどうかの違いです。この点から見て、飲食の違いも見えます。

もう一つ話すべきのは二つの地方の生活スタイルです。和歌山県は昔には文化や歴史に有名な所で、山部赤人という詩人がそこで「若の浦に、潮満ち来れば、潟をなみ、葦辺をさして、鶴鳴き渡る」という素晴らしい詩句を残っています。また、天皇も和歌山で見物しました。恐らくその原因で、和歌山の商家は大部分夜9時頃店を閉めると思います。外出する人も少ないです。この点は京都と似ています。広島といえば、人口がとても多いので、夜9時を過ぎても営業中の商家が多いです。ただし、この原子弾に襲われてから急速に回復した都市に住んでいる人たちはテンポがさらに速く、和歌山に比べて少し忙しいです。



現在、私は交換留学生として、毎日観察すると同時に色々なものを体験して生活を送っています。この一年間で、私は必ず有効な条件をフルに利用して勉強と思考をしており、和歌山での生活を楽しめ、日本での毎日を大切にします。